



幽玄·物哀·寂

〔日〕大西克礼◎著 王向远◎译



上海译文出版社

幽玄·物哀·寂

〔日〕太西克礼◎著 王向远◎译

上海译文出版社

图书在版编目 (CIP) 数据

幽玄・物哀・寂: 日本美学三大关键词研究 / (日)
大西克礼著; 王向远译. —上海: 上海译文出版社,
2017.7

ISBN 978-7-5327-7429-6

I. ①幽… II. ①大… ②王… III. ①美学思想-研
究-日本 IV. ①B83-093.13

中国版本图书馆CIP数据核字 (2016) 第313468号

幽玄論・あはれについて・「さび」の研究
大西克禮

幽玄・物哀・寂

——日本美学三大关键词研究

[日] 大西克礼 著 王向远 译

策划/姚东敏 责任编辑/顾真 装帧设计/张志全工作室

上海世纪出版股份有限公司

译文出版社出版

网址: www.yiwen.com.cn

上海世纪出版股份有限公司发行中心发行

200001 上海福建中路193号 www.ewen.co

山东临沂新华印刷物流集团有限责任公司印刷

开本 890 × 1240 1/32 印张 10.5 插页 13 字数 220,000

2017年7月第1版 2017年7月第1次印刷

印数: 0,001 — 5,000册

ISBN 978-7-5327-7429-6/I · 4526

定价: 56.00元

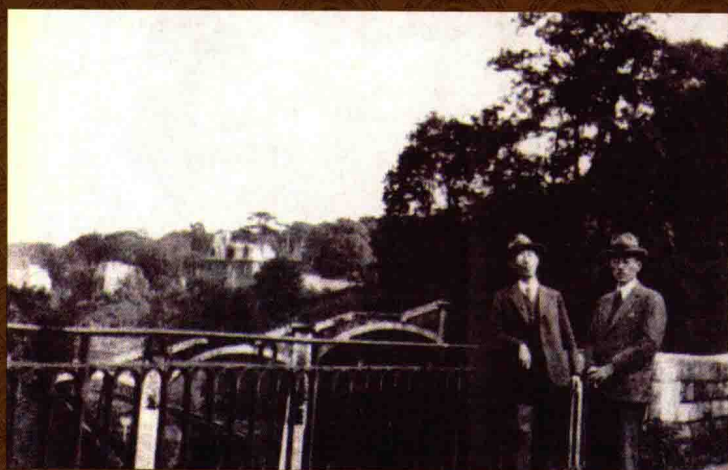
本书中文简体字专有出版权归本社独家所有, 非经本社同意不得转载、摘编或复制
如有质量问题, 请与承印厂质量科联系。T: 0539-2925659



1949年获，大西克礼在大坝



德国留学时期的大西克礼（右）



法国留学时期的大西克礼（右）

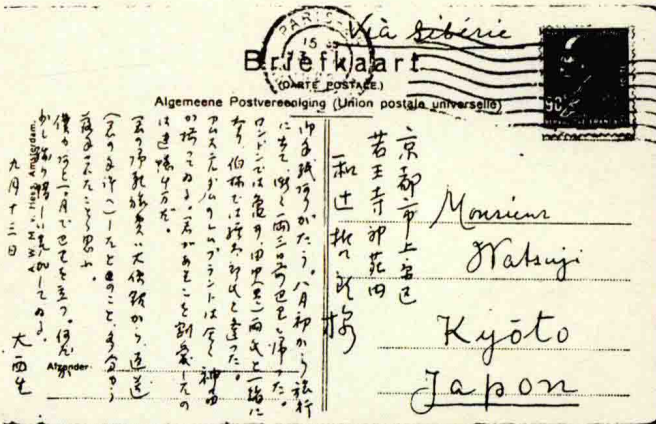


大西克礼（中）与友人

Rijksmuseum. — Amsterdam.



REMBRANDT VAN RIJN. — Les syndics des drapiers. — The syndics of clothmakers.



大西克礼送给辻哲郎的贺卡



山の湖

涼しざや木立さひたす山の湖 恒

麦酒のうまさ湯上りの橋 恒

日耳曼の古城の壁に鶯生いて 克

月に興ある驛馬車の空 恒

庵を出てはや一年の秋の暮合 恒

峠の茶屋につす草鞋 克

松ほろかにうねる裾野や茶の煙 恒

神垣寂ふてしづかなる宮 恒

形代に凝りし怨みや木下闇 克

宇流の狭雨筋に消ゆる玉の瑤 恒

灯の入りし金燈籠や秋の花 克

年比過ぐし跡とりの美女 恒

立並ぶ上を作りぬ代を強りて 恒

主賓家の札にそぐ秋雨 克

半鐘の上には高しうろこ雲 恒

百女鳥鳴く朝の背戸は掃木 恒

身二つになよそ人目憚りて 克

障子に胡き秋の日の煙 恒

白菊や後家を暮らす二十一年 光
 月桂む 燈の笑ふ二時 杳
 高麗の古執に燈ゆる牡丹花 恒
 燈の涙の涙の夜の窓 光
 開場時の電車つちかす華やかさ 杳
 灯に吸ひ空うりて狂ふ夜の蛾 恒
 納涼の窓をきりし槁の丘 光
 尾を曳く星に遠吠ゆる犬 恒
 宿世にもかくありにしと説く窓 杳
 長生殿裡 暁の夢 恒
 人知れず温泉湯にいらした心ゆふさ 恒
 紅梅泣けて 茶の午前よき 杳
 春晝や南の枝に眠る猫 光
 茶の花 遠く雲雀鳴くちり 杳
 野の隙の山波に湧く疾風雲 恒
 雪見のちゆに 木の葉 散り敷く光
 冬戴りの軒に吊すや干太根 杳
 微かにほく 爐辺の焼栗 恒

大西克礼手稿 (二)

待ちきれぬ恋。 千九百三十七年八月
 高原の朝爽に牛の鈴 杳
 鐘ととも 白雲と見え 恒
 午ふりかたの庭の木をよみ 恒
 詰理の家をよみ 杳
 静けや 梅 節の着る 杳
 逢はすに 道のやまを 恒
 春ももち 果の長きとわらふ 恒
 綿切の日は 腹のいへる 恒
 温泉は 雨の戸の 恒
 金髪をふら 貴女に 恒
 婚禮の化を 花の 恒
 雲を喜ぶ 花の 恒
 望みえる 故郷の 恒
 煙草の 煙を 恒
 ひと 觸れし 膝と 恒
 紅雲の 雲を 恒
 一羽の 鳥を 恒
 人の 心を 恒

大西克礼手稿 (三)

第四章 藝術樣式史の方法論的問題

本章以下に於いては、樣式の問題を主として、歴史性、側面から、即ち藝術樣式史の問題として取り上げようと思ふのであるが、その場合に藝術樣式史論の實質的、概念的の問題は入らずに、先づ藝術樣式史的研究に關する方法論的諸問題にせよ。――一通り考察を試み、必ずしも要すると思ふ、これが特に此の章に於いてきつとり取り扱はんとして、問題である、と云ふが、藝術史は理論一般文化史の一部門である。文化史は又更にその廣い意味に於いて、人類の一般の歴史は皆廣くその中であらわさる。吾々が此の章に於いて考察せんとする問題は、諸司に於いて文化史一般、或は歴史一般の根本的な方法論の問題と、必然的に群關する、とは明かであらう。――と云ふことは、其の一面から見て、明かである。藝術樣式史は、他の文化史の研究領域とは異なり、研究上の複合的、特殊事情下、又より近義の特殊性格にある。此の研究領域の内部に於いては、特別に多岐文化史の文化史にならぬやうな、独自の問題が多々ある。――と云ふことは、容易に想像されよう。斯ういふ、斯ういふ諸問題に、そのつから、その一般の方面と特殊の方面とに分かれ、又よきところは當然であらう、但し、その中、一般の方面に

ついては、これを詳しく研究する暇にない、と云ふことは、歴史哲學の諸問題に立ち入り、必要があるから、これは今此處では省略する、外、そのが、及ぶ、中、特に比較的最近の思想は、諸君に述べ立、殊に近來藝術研究の方面には、實に多大の影響を與へてゐる。――と云ふ立場に於いては、多少此處でも觸れ、置く必要がある。――と云ふに感ぜられ、それは即ち所謂、唯物史觀に基く藝術樣式史研究の立場である。――
元來廣い意味に於いて、文化史一般の方法論、或は歴史の哲學は、古くは天祿哲學上に所謂、觀念論の思想の範囲内に於いて、形成されたものである。觀念論的歴史哲學の大成者は、誰よりも、ヘーゲルである。――
しかし、ヘーゲル以前にも、例へばヘルダーは、かなり有名な人間、歴史の哲學に對するイデーレンを書いて居る。カントにも、*Opfer der Vernunft*、*Grundriss der Metaphysik*、*Prinzipien der Metaphysik*、といふ著作がある。無論ヘルダーは、或は意味では近代の人類學的研究の先驅者といふ小へ、吾等より、カントよりも或は意味では近代の社會進化の思想を示してゐるが、しかし、是等哲學者の歴史論は、何と云つても、觀念論的理想主義的であつて、ヘーゲルがこれに立つては、世界の歴史をその儘、絶対精神の円底の道程と見、やうな大規模の形而上學を根柢に置いた歴史哲學となつてゐる。尤も觀念論の歴史觀の中に、既に知らぬ哲學的延長の毛、此に立つ者のみならず、

(183)

る具體に、例へば既成の種々の宗教の歴史的發展は、
 基つて、人類の發達と解釈し得られようとする。今主
 張する（例へば）種々教は基督敎を代表し、儒教は缺
 乏を、同教は正義と、件教は忍耐の徳と、而して基督敎は
 愛を代表するといふやうに、社會學者キッドの説は
 山の種々の谷に近しい歴史（history）の宗教的解釈の見地を
 示してゐる。

さて斯ういふやうな觀念論的歴史観は新しうして、一方
 に、既に十八世紀の伊本・ナッセル、かの「ガイコ」の「新にい
 う學問の原理」(*Châle, Principes de la philosophie*)
 があり、更に十九世紀の英吉利にはバウクルの「英國文明
 史」(*Early History of England*)が出て、「人間の
 社會生活」との發達に對する「物的環境の影響」といふ點
 を歸納した人々があつた。乾すバウクルは「荒蕪風土
 食物等の關係が社會の進化的影響としての富の
 累積」といふことに及ぼす深き影響を分析して、或る
 意味で今日所謂唯物史觀に近い見地に到達してゐ
 る。但し彼は歴史に於ける「物的要素の影響を言ふた
 ることを力説はしないけれども、同時に主なる物的的
 力は對する「精神力の勝利」と人間の進化的發展の根本
 であつたことを充分に認識してゐたであつて、一應「歐洲
 文化の發展は専ら智識の發展に基つてゐる」として、
 智識の發展は、人間の「教智」を第一とし、その「若
 い」發展及びそれが一般に普及する程度は依存するとい

(1842)

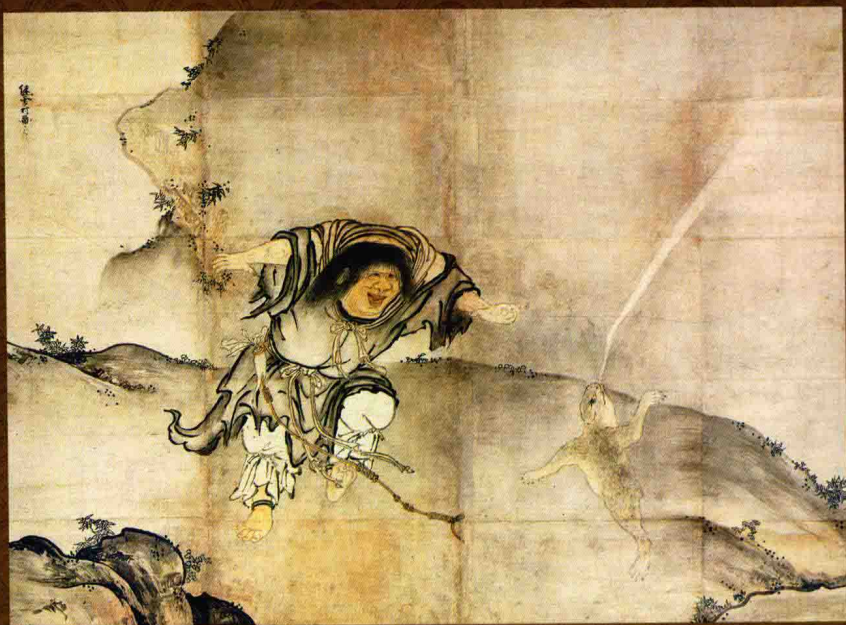
[illegible]



長谷川等伯《千利休像》



雪村周繼《雪村自画像》



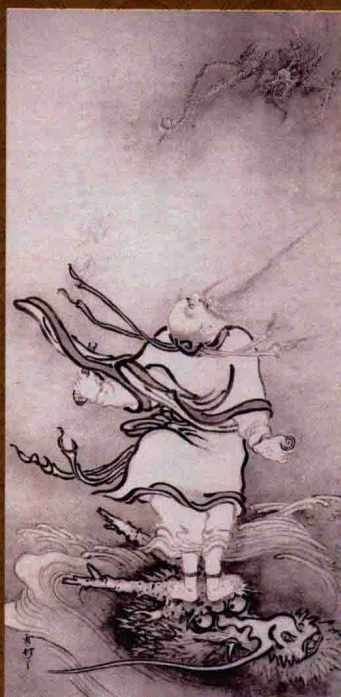
青村周繼《虾蟆鼓揚図 左》



雪村周鑑《燈瑛模拐圖 右》



雪村周继《松鹰图》



雪村周继《吕洞宾图》



雪村周继《龙虎图屏风 左》



雪村周继《龙虎图屏风 右》



雪村图继《风涛图》